一般社団法人 福岡県言語聴覚士会

ニューズレター

NEWS LETTER　　第78号 令和1年6月30日発行

事務局：麻生リハビリテーション大学校　灘吉 享子　〒812−0007 福岡市博多区東比恵3−2−1
TEL 080-1776-5108 FAX 092-436-6612　県士会HP：http://st-fukuoka.or.jp

Contents

P1　巻頭言
P2　総会時講演会報告
　　言語聴覚の日イベントお知らせ
P3　新人研修会案内
P4　三役・局長より
P5　委員会より
P6　事務局からのお知らせ
　　議事録

巻　頭　言

副会長　原田　恭子

いよいよ令和元年がスタートしました。

私事ですが、STとして仕事を始めたのが昭和の時代でしたので、平成の時を終え新しい時代に向け、残りのST人生にどう向き合っていこうかな、と考えることが少々増えました。

スタートと言えば、この4月から福岡市でも、新生児聴覚スクリーニングの公費負担が開始されました。福岡県では、北九州市、うきは市に次いで3番目となります。九州ではすでに、長崎県、大分県、鹿児島県はすべての自治体で公費負担で実施されていることを考えると、いかに本県は遅れているかを思わずにはいられません。ご存知のように、難聴のお子さんの出生率は、新生児1,000人につき約1人です。この検査を自費負担で実施する場合、自動ABRで5,000円OAEで2,500〜3,000円がかかります。未だに、難聴疑いで紹介されたお子さんの中には、出生時にこの検査を受けていない方もいらっしゃいます。どの自治体のどの施設で生まれても公的補助で検査が受けられるよう、聴覚にかかわる私たちSTも働きかけをしていかなければいけないと感じます。

乳幼児の難聴は、言語発達の遅れに影響する最大の因子と言っても過言ではないと思いますが、昨今、難聴と認知症の因果関係が多方面で報告されるようになりました。厚生労働省が2015年に作成した「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」の認知症発症予防推進の対策項目の中にも、危険因子として「難聴」が入っています。難聴によるコミュニケーションの困難さが社会的活動の低下を引き起こし、認知機能や精神的活動に悪影響を与えるといわれ、難聴に対する「補聴」の有効性が様々な研究結果として報告されるようになってきました。難聴を有する認知症の患者さんの聴力検査は容易なものではありませんが、検査手技の工夫をすることで検査が可能になる例もあります。検査が可能になれば、補聴器装用を試みることもできます。しかし、実際に装用が可能になるまでには、細やかな調整と行動観察、家族や装用者本人が効果を感じていただかなくては継続的な装用には至りません。そこには、私たちSTのサポートが不可欠です。

「補聴」が認知症の発症の抑制につながる、ということはまだ研究の段階ですが、高齢者にとって、視力の低下とともに聴力低下はとても身近に存在します。ところが、眼鏡に比べ、いまだに補聴器の装用はハードルが高く、小児も高齢者も補聴器を装用することに躊躇しがちです。STが介入していくことで「補聴」への入り口を広げ、活き活きとした社会参加活動が楽しめるように、「食べる」「話す」「考える」ことと同様に、「聴こえのパートナー」として積極的にサポートしていければ良いですね。

総会時講演会の報告

学術局　横井　保紀

近年、全国各地において「地域包括ケア」の取り組みが始まり、在宅復帰や地域に根差した生活の重要性が取り上げられている中、去る5月19日に、医療法人 共和会 小倉リハビリテーション病院名誉院長である浜村明徳先生をお招きし、「地域包括ケア時代のリハビリテーション―言語聴覚士への期待―」と題してご講演をいただきました。

地域リハビリテーションを推進するにあたり、対象者が「地域から見守られていると感じられる」生活を送れるようにすることが重要であり、地域を巻き込んだ支援のポイントに始まり、型にはまったサービスではなく、「その人らしさ」に目を向けた関わりとは何か、といったことを具体的な症例を元にお話し頂きました。

参加者からは、「急性期病院に勤めている中で、“退院させよう”という想いに捉われるばかりになっていないか、自分を振り返ることができた。」、「地域で生きる・戻るということは大切だし、その人らしく、ということが必要であることは分かった。それが、システムとして当たり前になれば良いと思う。」、「浜村先生の“リハ専門職全体へ”ではなく、“STへのメッセージ”が、とてもためになりました。」等のご感想をいただきました。

地域リハビリテーションの全国的な第一人者であり、北九州ブロックの介護老人保健施設協会会長もお勤めである浜村先生のご講演とあり、県内外から合わせて87名の方々がご参加され、その内4割近い参加者が北九州からのご参加でした。

浜村先生から私達言語聴覚士に向けられたメッセージの一部を最後にご紹介します。

「本当のプロフェッショナルとは・・『周りがどうであれ自分が崩れない、やるべきことが実行できる人、自分軸のある人』のこと」

浜村　明徳 先生

「言語聴覚の日」イベント開催のお知らせ

社会局

皆様ご存知の通り9月1日は「言語聴覚の日」です。本年度も言語聴覚士と言語聴覚障害の啓発を目的として、「言語聴覚フェスタ2019」を開催します。

内容は一般市民の方々を対象とした無料相談会や体験コーナーです。また今回は特別イベントとして、RKB毎日放送の坂口卓司さんと国際医療福祉大学准教授の石山寿子先生による講演会「ことばのリハビリって？　坂口卓司さん×言語聴覚士～ことばを紡ぐプロに聴く～」も開催します。この活動を通して言語聴覚士と言語聴覚障害が広く周知されることを望んでおります。会員の皆様のご理解・ご協力を宜しくお願い致します。

言語聴覚フェスタ2019

会場：アクロス福岡1階アトリウム（無料相談、体験コーナー）
　　2階セミナー室（特別イベント）
日時：2019年9月7日（土）10:00～15:00（特別イベントは11:00～12:00）
※参加費無料

新人研修会のご案内

県士会では下記の要領で新人研修会を開催いたします。今回は、日本言語聴覚士協会の生涯学習プログラムである基礎講座を４つ開催致します。この講座は、日本言語聴覚士協会による認定言語聴覚士講習会を受講する上で、必須の講座となっております。

参加希望の方はQRコードもしくは県士会のホームページからお申し込みください。多くの方の参加をお待ちしております。

【日　時】2019年７月28日（日）　10時～14時
【会　場】麻生リハビリテーション大学校　2号館３階
【内　容】

	A会場　　２３１教室	B会場　　２３２教室
９時３０分～	午前の部　受付開始	
１０時００分～１１時３０分（９０分）	**基礎講座①** **「職種連携論」** 深水　峰子先生 柳川リハビリテーション学院	**基礎講座②** **「言語聴覚療法の動向」** 大内田　博文先生 国際医療福祉大学
１１時３０分～１２時３０分（６０分）	休憩　　１２時より　午後の部　受付開始	
１２時３０分～１４時００分（９０分）	**基礎講座③** **「臨床業務のあり方、進め方」** 大内田　博文先生 国際医療福祉大学	**基礎講座④** **「研究法序論」** 深水　峰子先生 柳川リハビリテーション学院

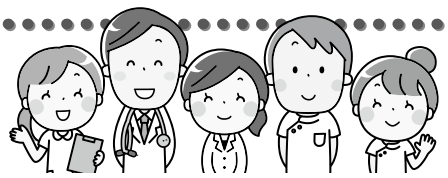
【参加費】県士会会員：1000円　県外県士会会員：2000円　非会員：5000円
※受講講座数に関わらず、参加費は同額となります。
※当日の受付時に県士会会員証の提示がないと「非会員料金」となります。
※この研修会は日本言語聴覚士協会生涯学習プログラムポイント取得対象研修会です。
基礎講座を受講される方は生涯学習講座受講記録票をご持参ください。
日本言語聴覚士協会や福岡県言語聴覚士会への入会がお済でない方は、研修会当日までに入会申請を行ってください。
※当日、会場施設ではオープンキャンパスが開催されています。
服装・身だしなみへのご留意をお願い致します。
※当日、台風等の災害や交通機関の停止等により中止になる場合は、県士会HPにてご案内しますので、各自HPをご確認ください。

【申し込み】申し込み締め切り：7月22日（月）
URL：https://ssl.form-mailer.jp/fms/eb1f7c7f345913

QRコード

問い合わせ先　介護老人保健施設　M.T奈多ケア院　横井　保紀
E-mail：keain-rihabiri@souseikai.or.jp
当日問い合わせ（事務局）：080-1776-5108

三役・局長より



会長　佐藤　文保

STになりたての頃、担当する患者さんは、失語症や構音障害、高次脳機能障害の患者さんが主で、STとして地域活動を支援することなど、ほとんどありませんでした。またその頃は『STのリハビリは個室でやるもの』と思い込んでいた頃のことが懐かしく思います。それから24年が過ぎ、STとしての業務内容や役割、さらには職域に随分変化がみられます。また、個室だけで行うリハビリがSTの役割ではなくなってきています。それぞれのSTがこの変化を感じ取り、新しい時代の流れにのっていけるよう、今年度も県士会の活動を進めていきます。

副会長　佐々木　哲

コミュニケーションに障害ある方やそれを支える方に対し、専門的な知識・技術をもって最善を尽くすこと。これはSTの使命と考えます。その使命を支援するために県士会は存在すると思います。独りの力は小さくても、集まることで大きな力となります。会員の皆さんを結び付けることが出来るよう尽力していきます。

副会長　原田　恭子

今年は、色々な面で「スタート」の年になりました。自分自身の業務もそうですが、県士会でも新たな部局や委員会が立ち上がり、スタートを切っています。目標を持って動かなければ、あっという間に1年が終わりそうです。気持ちを奮い立たせて頑張りたいと思います。

事務局　灘吉　享子

平成30年度も会員の皆様にはご協力いただきありがとうございました。事務局には、新たに会員情報管理に携わる事務アルバイトのスタッフが加わり、より正確に且つ迅速な対応を目指しております。会員数はここ数年、630名前後で推移しております。会費を滞納されることにより、退会処理をせざる負えなくなる状況があります。会員の皆様方には是非ご協力いただき、会員数の安定的な増加をめざしたく存じます。何卒、ご協力御願いします。また、引き続き会員の方々が安心して活動に参加できるように会の事務管理運営に努めてまいります。今年度もどうぞよろしくお願いします。

学術局　大内田博文

今年度より組織体制が変わり、地域包括ケアシステムや訪問リハに関わる研修会事業が移管されました。それにより学術局では定期講演会の充実を図っていくとともに、2020年度に福岡で開催される九州地区言語聴覚士学術集会の準備を進めて行きます。例年以上に協力員を多く募集しています。会員の方々とともに研修会や学会、様々な事業を運営していきたいと考えております。ご協力の程、宜しくお願いいたします。

社会局　吉永　明史

言語聴覚障害や言語聴覚士について一般の方にも広く知ってもらうことを目標に活動しています。「言語聴覚の日」のイベント開催や関連職種団体主催のイベントへの参加・協力が主な業務です。昨年度立ち上げた災害対策委員会を中心に、災害対策マニュアルの整備や派遣員の養成などを進めて参ります。また、地域貢献を通じて、STが社会にとって有益な職業であると広く認知していただけるよう努めて参ります。会員皆様の協力が不可欠ですので、何卒よろしくお願いします。

職能局　松井麻実子

ご自分の所属ブロック、ご存じでしょうか？県士会では福岡県全体を6ブロックに分け、県士会全体とブロックでの活動を行なっています。ブロック主催の勉強会は、地域の中で顔が見える関係作りのチャンスです。みなさん、ぜひ奮ってご参加下さい。また、健康フェアなどでは、STが在籍している病院についてよく質問されます。県士会への問い合わせも多く、会として情報の把握・整理を行なっています。所属等に変更があった場合は、変更届を提出して頂くようご協力お願いします。

地域包括ケア推進局　藤川　　仁

2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築が進められている中、地域におけるリハビリテーション専門職の役割が高まってきております。当会も今年度より新たに地域包括ケア推進局を設置いたしました。我々STに求められていることは自立支援、介護予防と重度化防止の推進、地域ケア会議の効果的な開催を支援することなど多岐に渡りますが、まだまだ人材が不足しております。今、参画が遅れると今後STが必要とされるかどうかはわかりません！皆様のお力をぜひお貸しください。

広報局　齋藤　裕子

今年度は会報を電子版にすることが決まりました。例年以上にホームページの充実をより図れるように努めたいと思います。新着情報に加え、委員会や会員それぞれの活動についても、多くに方に関心を持っていただけるような広報活動を進めていけたらと思っています。よろしくお願いいたします。

委員会より

【失語症サポート委員会】

委員長　髙橋　雅子(牟田病院)

当委員会は、厚労省から通達された「失語症のある方への支援者養成事業」を県下で進めるため、2018年度に学術局に設置されました。「失語症のある方への支援者」とは、聴覚障害のある方への要約筆記や手話通訳のように、地域の「失語症者を支援する有償の専門ボランティア」です。委員5名は、県士会会長・副会長、学術局や事務局理事の方々とともに、県士会が福岡県より委託されたこの事業の運営にあたっています。

2018年度は、6回の委員会で事業の検討や情報共有をしながら、支援者養成講座（10月3日間）、失語症友の会やサロンでの複数回の実習などであっというまに過ぎました。2019年度は、6月から2期生を迎えて講座が始まり、1期生のフォローアップ、派遣に向けての構想などでさらに忙しくなりそうです。

「失語症になり不安な思いを抱えて戻った地域に専門の支援者がいる」環境作りに向けて、失語症に最も身近な専門職としての責任とやり甲斐を感じながら取り組んでいます。

【地域サポート委員会】

委員長　大山　治朗(まどか訪問看護ステーション)

私達、地域サポート委員会（ちいサポ）は地域で活躍できる人材育成、実際に地域で活動するための企画・提案を行うことを目的として設置されました。地域リハ支援推進のための人材育成事業・福岡県３士会訪問リハ実務者研修・地域医療介護総合確保基金による研修といった、これまで県士会が担っていた地域関連の研修事業の運営の一部を行っています。また、今年度は地域ケア会議で取り上げられた事例や助言内容などのデータを集積し、県士会会員間で情報を共有できるようなシステムや、ケア会議アドバイザー新規登録者がスムーズに会議に参加できるようなシステムを作ることを予定しています。

地域包括ケアシステムの重要性が謳われる昨今、福岡県でも人材育成による質・量の担保とSTによる介護予防事業の啓発の一翼を、このちいサポが担っていければと思います。今後とも宜しくお願い致します。

【災害対策委員会】

委員長　中川　英紀(戸畑共立病院)

近年、大規模災害及び局地災害が頻発しており、避難所や仮設住宅などで災害関連疾患の予防を目的とした災害リハビリテーションが注目されています。それに伴い、福岡県言語聴覚士県士会において昨年12月に災害対策委員会を発足する運びとなりました。

発足後は2カ月に1回のペースで活動を行っていますが、災害リハビリテーションをどのように行っていくのか、まだ手探り状態となっているのが実状です。しかし、毎年日本各地で災害が発生している状況であり、私たちが生活基盤としている九州においても熊本地震や九州北部豪雨等が記憶に新しく、いつどこで災害が発生しても不思議ではないと感じています。災害には組織的、継続的な支援が重要である為、現在の委員会活動の目的は、県士会の皆さま方に向けた災害リハビリテーション研修会を開催させて頂きたいと考えております。研修会を通じて知識を共有し、発災時には可能な範囲で構いませんのでご協力をお願いできればと思っております。日時が決まりましたら改めてご通知致します。

【小児サポート委員会】

委員長　松井　麻実子(北九州市立総合療育センター西部分所)

年2回の研修会の企画・開催を主な活動としています。小児分野のみならず成人分野からの参加も少しずつ増え、研修会で行なうグループ討議は色々な視点からの意見が聞ける場となっています。

また県士会には、地域での相談先を尋ねる市民の方からの相談などが年々増えています。相談件数の増加、より多様化した相談内容に応えるためにも、情報をより正確に、詳細に整理する必要性を感じています。会員の皆様にご協力して頂くこともあるかと思いますので、その際は宜しくお願い致します。

事務局よりお願い

①会費の振り込みの際は、必ず**会員番号を記入**して下さい。
尚、会費納入につきましては、なるべく自動引き落としにしていただくようお願い致します。
「自動払込利用申込書」にご記入捺印の上、事務局に提出してください。

※振替受領書や領収書は1年間大切に保管されますようお願い致します。

○お問い合わせ先(事務局)
灘吉　享子(麻生リハビリテーション大学校)
(携帯) 080-1776-5108 (FAX) 092-436-6612

②**改姓や住所変更、郵便送付先(勤務先・自宅)変更等があった　場合は、速やかに変更届を下記に提出を御願い致します。**
届出用紙は県士会ホームページからもダウンロードできます。

○**会員情報担当:麻生リハビリテーション大学校　福島 志津**
(TEL) 092-436-6656　(FAX) 092-436-6612
(E-Mail) s-fukush@asojuku.ac.jp

③**会員証をご確認下さい。**

【ゆうちょ銀行からのお振込み】
振 込 先:郵便局
記　　号:１７４１０
番　　号:８１２７１８３１

【ゆうちょ銀行以外からのお振込み】
銀 行 名:ゆうちょ銀行
金融機関コード:９９００
店　　番:７４８
預金種目:普通
店　　名:七四八(ナナヨンハチ)
普通口座:８１２７１８３
口座名義:シャ)フクオカケンゲンゴチョウカクシカイ

★研修会等の受付の際、会員証の提示がない場合、**非会員料金**になります。
★会員証は、**今年度分まで会費納入済**の方にお配りしています。
★**本年度**の会員証をお持ちでない方はメールかFAXでお問い合わせ下さい。

メール　fukuoka_st_730@yahoo.co.jp
FAX　092-436-6612

会員の皆様へのお知らせ

第11回理事会
2019年3月30日(土)

場所：麻生リハビリテーション大学校
出席：佐藤文、佐々木、原田、灘吉、星子、松尾、佐藤佳、井上、今村、大内田、横井、山口、吉永、大森、永江、藤川、松井、山田、古澤、齋藤、荒木、酒井
欠席：梶、渡邉、児玉
<報告>
会員数：658名　(正会員：654名　　賛助会員：4名)
入　会：0名　　退会：7名　　変更：0名
<議題>
①福岡県介護予防市町村支援委員会報告(佐藤)
　3月12日　佐藤出席
　介護予防事業　ST登録者26名
②2019年度失語症者向け意思疎通支援者養成事業(佐藤)
　3月7日　県との打ち合わせ(佐藤・佐々木出席)
　開催日：6月1 ～ 2日、7月6 ～ 7日
　派遣事業も委託されているが、県としての予算計上なし
③2018年度失語症者向け意思疎通支援者養成事業報告(佐々木)
　申込者18名　　修了者15名
　内容　講義12時間　身体介助実習2時間
　コミュニケーション支援実習18時間　外出同行支援実習8時間
④総会時講演会進捗状況(学術局)
　5月19日　8:30　スタッフ集合(麻生工科自動車大学校)
　場所についての張り紙を麻生リハの入り口に掲示
⑤新人研修会について(学術局)
　7月28日(日)　麻生リハ(理事会と同時開催)
　基礎講座4講座実施で検討
⑥九州ST学会運営について(学術局)
　2021年1月23 ～ 24日
　北九州市に共催の申請、業者への委託などすすめていく
　参加者500人を想定(予算300万円程度)
　運営会議は理事会の日程にあわせて実施
⑦総会について(事務局)
　議長：門田ST(九州医療センター)、渡邊ST(福大)
　出欠返信や委任状の提出をメールですすめたい
　→電子媒体の使用自体は可(定款確認)
　今年度は例年通りハガキを同封、次年度周知させていく
⑧役員変更登記の書類について(古澤)
　就任承諾書：全員必要(住所・氏名記入し、認印)
　社員総会時の理事会議事録(出席者の認印)
　住民票：新理事のみ
⑨佐賀九州学会シンポジウムについて(酒井)
　シンポジストは本来招待されるもの
　参加費を個人が払うのはおかしいのではないか
　次回の代表者会議で提案する(マニュアル作成なども含めて)

第12回理事会
2019年4月21日(日)

場所：麻生リハビリテーション大学校
出席：佐藤文、佐々木、原田、灘吉、星子、松尾、佐藤佳、井上、大内田、横井、吉永、永江、松井、山田、児玉、古澤、齋藤、荒木、酒井
欠席：今村、山口、梶、大森、藤川、渡邉
<報告>
会員数：616名　(正会員：612名　　賛助会員：4名)
入　会：4名　　退会：7名　　変更：4名
<議題>
①災害対策委員会(吉永)
　4月15日　第3回委員会開催
　研修会開催予定　10月6日(日)で原田浩美先生に打診
②九州地区合同学会進捗状況(大内田)
　名鉄観光、西鉄に見積もり依頼
　予算書作成(参加者400名程度で検討中)
　総会時にテーマなどのアンケート実施(夏には決定)
③次年度の活動における検討事項(佐藤)
　事務局：会費の検討(協会の動向を確認して検討)
　　吃音などの相談対応をなんとかしていきたい
　広報局：HPの内容などを検討
　学術局：学会開催をスムースに運営していけるようにする
　　研修に新規の方に来てもらえるように検討
　社会局：20周年後の言語聴覚の日イベントについて検討
　　(地域での開催など)
　職能局：会員外からの問い合わせなどにどう対応していくか検討
　地域包括ケア推進局：来月委員会を開催
④2019年度福岡市地域ケア会議について(佐々木)
　昨年度は本庁のみで開催
　今年度予定　本庁2回／月(年間)、各区1回／月(6 ～ 7月)
　次年度予定　各区2回／月になる方針
⑤総会時講演会について(学術局)
　録画機器を購入　予算¥100,000上限
⑥新人研修会について(学術局)
　7月28日(日)　麻生リハ
　基礎講座4講座開催予定
⑦その他
　・PT50周年記念式典　9月7日(佐藤出席)
　・5月23 ～ 24日　小児耳鼻咽喉科学会(国際会議場)
　・県地域包括ケア事業　医療機関関係者以外も登録可能となった
　・川崎町ケア会議　今年度STの参加は見合わせるとのこと

第1回理事会
2019年5月19日(土)

場所：麻生リハビリテーション大学校
出席：佐藤、佐々木、原田、灘吉、松尾、福島、難波、大内田、横井、吉永、大森、久池井、永松、松井、冨永、藤川、山田宏、永江、古澤、齋藤、荒木、酒井
欠席：井上、山田洋、山口、梶、児玉
<議題>
①失語症者支援事業について(佐藤)
　5月20日　県との打ち合わせ
②口腔機能発達不全について(原田)
　口腔機能不全の算定が可能になった(15歳未満)
　6月に再度話し合い予定
③新人研修会進捗状況(学術局)
　7月28日(日)　10:00 ～ 14:00　麻生リハ
　基礎講座4講座　　講師：深水、大内田
④協力員について(学術局)
　現在登録5名
⑤総会時講演会について(学術局)
　参加者87名
⑥九州学会準備スケジュールについて(学術局)
　夏頃までに大会テーマなど決定
　第1回準備委員会　6月22日(土)　13:00(三役、大内田、大森)
⑦言語聴覚フェスタについて(社会局)
　チラシ作成中
⑧本日の反省(事務局)
　受付自体は比較的スムースに流れていた
　名簿の修正ができていない部分が多かった(変更届出していても)
　当日、変更届も受付できるようにする
　自分のブロックがわからない人が多い→HPの地図を掲示する
　年会費の受付時間を区切るようにする
　総会自体は1時間強　選挙の年は仕方ないのではないか
　録画の準備ができていなかった
　顔合わせ会の進行はブロック長だけでなく理事も協力を
　委任状の集めかたを検討していく